

第1分科会

高校での探究活動を、どのように高校生のキャリア形成・発達につなげるのか
～指導のあり方、校内体制、展望や苦悩の視点から～

- [報告者] 中井 裕彰 (京都府立宮津天橋高等学校 (宮津学舎) 教諭)
[報告者] 戸田 智和 (京都府立洛北高等学校 教諭)
[コメンテーター] 乾 明紀 (大学コンソーシアム京都高大連携推進室員/
京都橘大学 経済学部 教授)
[コーディネーター] 井上 実 (京都府教育庁 指導部 高校教育課 指導主事)

宮津天橋高校では生徒が生まれ育った「地域」に着目し、自己の在り方を見つめる探究活動を行っている。その中で見えてきた生徒のキャリアと「地域」との関わりについて、事例を報告する。洛北高校からは、探究活動がキャリア発達に与える影響について、アンケート結果や卒業生の進路先から考察する。中高一貫サイエンス科の探究活動における成果を普通科に応用するに当たっての展望と課題を報告する。

高大双方が探究活動について、キャリア形成・発達の視点から参加者と一緒に考える。

概 略

<内容>

- 1 報告者紹介
- 2 報告 (60分)

報告① 京都府立宮津天橋高等学校 (中井氏)

テーマ: 「探究と地域とキャリアをどう結ぶのか」

- ・本校の総合的な探究の時間とその支援
- ・正統的周辺参加について
- ・キャリアを拓いた事例の共通項 (卒業生や在校生の事例から)
- ・校内体制について (指導する先生の参加も周辺から中心になるように設計)

報告② 京都府立洛北高等学校 (戸田氏)

テーマ: 「サイエンス科の探究活動における成果と普通科への応用」

- ・本校サイエンス科の探究活動
- ・探究活動の自己評価と進学結果の関係
- ・サイエンス科の探究活動を普通科へ
- ・探究活動とキャリア教育

報告へのコメント (乾氏)

- ・2校の特徴について
目的志向性と促進・助勢者の観点から
探究プロセスの観点から
キャリア開発に不可欠なアイデンティティとエージェンシーについて
- ・課題提起
「探究活動において、どうすれば学校を開くことができるのか？」等

- 3 休憩 (10分)
- 4 グループディスカッション (30分)
4人ずつの班に分かれてグループディスカッション (報告者2名も参加)
- 5 意見の全体共有 (15分)
各班で出された特徴的な意見を発表し、全体で共有

全体討論の内容

報告された2校の探究活動の特徴を参考にして、参加者の自校での探究活動を振り返り、探究活動を深めていく方策や体制について協議・共有した。

<参加者からの感想>

本校も探究活動を行っているが、教科の枠の範囲での探究活動となっている。近隣には特色ある地域(宇治)があるので、その特色を活かした探究活動が進められたらと思う。

<報告者への主な質問>

質問①: 探究活動の最初の授業で、生徒や指導する教員に向けた説明をしているとのことであったが、具体的にはどのようなことを話しているのか、ダイジェストでよいので教えてほしい。

質問②: (大学職員から) 総合型選抜や学校推薦型選抜と、一般選抜の指導の仕方は変わるのか教えてほしい。

到達点と今後の課題

報告した2校は、どちらも探究活動を全校体制で取り組んでいる学校であるが、その手法は対照的でもある。宮津天橋高校(宮津学舎)は、生徒の探究活動のプロセスにおいて、課題設定に力点を置いている。生徒が課題設定を行う段階で、自身の育った地域(人生経験)を原点として、興味・関心を徹底的に追究する。また、探究活動の中で地域の人々と積極的に関わることで、自身(アイデンティティ)やキャリア(在り方・生き方)を見つめる機会としている。一方、洛北高校はSSH指定校でもあり、探究活動のプロセスにおいてはデータの収集と分析に力点を置き、よりアカデミックな探究活動を実施している。大学や研究機関との連携の中で、社会の発展に寄与する態度(エージェンシー)を育み、研究の基礎を学ぶ取組となっている。

探究活動の目標や生徒のキャリア形成へのアプローチが異なる2校の実践は、探究活動を進めようとしている全国の高校が自身の学校の実態に則した探究活動を考える上で、大変参考となる事例であったと思われる。

また、少し俯瞰して見れば、2校の探究活動からは大きな共通点を見いだすこともできた。その1つが学校外の機関との連携である。地域社会や大学等の研究機関との連携は、生徒に学校での学びと社会とのつながりについて気づきを与えることとなり、自分が社会の一員であることを自覚させる契機ともなる。このような要素を含んだキャリア教育ともいべき働きかけと探究活動とが相互に影響し合うことで、生徒のキャリア発達が促され、探究活動が他者に強いられるものではなく、生徒自身のものとなっている様子を伺うことができた。

本分科会は、全国の学校が探究活動を教育課程にどのように位置付け、地域の人材や資源を活用しながら、どのような生徒の育成を目指すのかを考えるきっかけとなったのではないかと考えている。今回の報告のような価値ある取組を全国に広めていくことが今後の課題であると考えている。



スライド 1

第22回高大連携教育フォーラム 第2部 第1分科会

高校での探究活動を、どのように
高校生のキャリア形成・発達につなげるのか
～ 指導のあり方、校内体制、展望や苦悩の視点から ～

京都府立宮津天橋高等学校（宮津学舎）	教諭	中井 裕彰
京都府立洛北高等学校	教諭	戸田 智和
京都橋大学 経済学部	教授	乾 明紀
京都府教育委員会 指導部高校教育課	指導主事	井上 実

スライド 2

第22回高大連携教育フォーラム 第2部 第1分科会①

探究で地域とキャリアをどう結ぶのか
～地域に根ざした探究活動とその支援について～

京都府立宮津天橋高等学校（宮津学舎）
探究推進部 教諭 中井裕彰

スライド 3

<自己紹介>

- 名前：中井裕彰
- 担当：理科（主に物理を担当）
- 分掌：探究推進部

<本校の沿革>

- 1906年 旧制第四中学校 設立
- 1948年 京都府立宮津高等学校 開校
- 2020年 京都府立宮津天橋高校 開校（宮津高校と加悦谷高校が合併）
- （2023年 京都府立宮津高等学校 開校）

<本校の特徴>

- 京都府初の学舎創導入
- 地域の伝統校
- 生徒・教員の愛着（母校愛）が強い

スライド 4

本校の総合的な探究の時間とその支援

- 1年生：キャリアと地域に着目した探究活動 / 2年生：自由にテーマを決めて探究活動
→ 令和5年度 全国マイプロジェクトアワード表彰
- 「指導」ではなく「支援」
- 生徒が本当に「やりたいこと」を教えてやることはできない。
→ 「教える・教わる」の関係を乗り越えた学習観の転換

スライド 5

「正統的周辺参加」 『教育に携わられた学習（ラーン・レイヴ、エディエンテ・ウェンダー）』より

- 学習を「人が実践の共同体に参加することによってその共同体の成員としてのアイデンティティを形成すること」と定義。（与キャリア形成）
- 学習の定義の中に「知識や技能の獲得」は記されていない。
→ 「教える・教わる」という学習観とは一線を画す考え
- 実践の共同体は社会や文化の中にある。
→ 学校や教室はあくまで「精選し」の場

スライド 6

「正統的周辺参加」 『教育に携わられた学習（ラーン・レイヴ、エディエンテ・ウェンダー）』より

- 教師・生徒が「教える・教わる」の関係から「正統的周辺参加」への意識転換
→ 教師は生徒の伴走者（どの共同体の熟練者になりたいのかを二重に見つける）
- 担当するゼミの教員は専門外
→ 教員と生徒の両者が学びを広義に捉える（正統的周辺参加）きっかけに。
- 教師とのミスマッチ・コンフリクトは必ず存在。

第1分科会

スライド 7

実践の共同体はどこにあるのか

- 学校での体験は社会的な文脈から切り取られた体験ばかり。
- 学校の中は自ら意思決定、アクションを行い、FBをもらうことが極端に少ない。
→ 「学習」の狭義化（「教える・教わる」の関係・一方的に与えられること）
→ 新たな学習観として正統的周辺参加を実現し、生徒を育てていく。
- 生徒にとって参加しやすい（あるいは参加したいと思える）実践の共同体はどこにあるのか。

スライド 8

キャリアを拓いた事例の共通項

- 地域（与人生経験）はキャリアの原点。
- 興味・関心（不平・不満）はキャリアを拓く原動力。
- 他者とのつながりは価値観の広がり・張りとなり、生徒に使命感（キャリア）を与える。

スライド 9

卒業生の事例

• Aさん（令和4年度卒）
→ 長崎大学（水産学部）

「地域との交流を経て、自身の興味・関心が社会と結びついた。」

• Bさん（令和4年度卒）
→ 大阪公立大学（文学部）

「将来は地元の魅力を多くの人へ伝える仕事をしたい。」

スライド 10

1年生で行う「地域共創研究」

- 「地域（経験）」×「将来のビジョン（やりたいこと・変えたいこと）」の探究活動
- 地域で活躍する大人（事業者・公務員等）とのかわり・対話
→ さまざまな大人と触れることで生徒のキャリア観を豊かにする。
→ 自身の感じる課題の解決こそ地域への貢献になることを実感させる（自己実現欲求）。
- 探究はあくまで自己の在り方（キャリア）を見つめる営み。
→ 生徒自身がその営みを自己や社会の中にも位置づけられるか考えることが使命感につながる。ゆえに結果の大小は問わない。

スライド 11

在校生の事例

• Cさん（現・高校3年生）
→ ???

「魅力をさらに広めたい」という自身の思いに気づいた。

安定した放射線技師 → 地域創生の進路へ

自分のイメージと地域住民とのギャップ

探究は答えがないから面白かった。

スライド 12

校内体制について

- 1年生：
6名を各クラス2名ずつ配置 → 2学期から6つのゼミを担当
- 2年生：
16名で7つのゼミ（人文、社会、生物…）を担当
- 探究推進部は全体を見渡ししながら、最低限のスケジュール管理のみ。
→ 指示が多いと教員もやらされ感を感じてしまう、徐々に裁量権を託していく。（支援体制も正統的周辺参加（周辺から中心へ）を意識する）

スライド 13

1年生の授業計画例

- 1回目：全体講演（中井）
- 2回目：説明・調査活動（HRごと、担当者2名1チームで）
- 3回目：説明・調査活動（HRごと、担当者2名1チームで）
- 4回目：取組の報告会（学年を5会場に分けて、教員はファシリテーター）
- 5回目：全体講演（中井）
- 6回目：説明・調査活動（HRごと、担当者2名1チームで）
- 7回目：説明・調査活動（HRごと、担当者2名1チームで）
- 8回目：取組の報告会（学年を5会場に分けて、教員はファシリテーター）
- 9回目：外部講師とのセッション（教員はファシリテーター）
- 10回目：各グループに分かれて・・・
- ・・・

①セット

②セット

終了決定？

スライド 14

支援体制も「正統的周辺参加」を意識して

- 先生の立場も周辺から中心になるように設計（丸投げは絶対しない）。
 - 初めて担当する先生の授業への負担感を軽減。
 - 全体ガイダンスの実施で探究活動の理念や必要性を理解。
 - 担当する先生方も参加度合いを高める、あるいは力を発揮できる仕掛け作り。

①本音トーク
「先生にとっての
地元とは」

②小論文講座
（国語科と連携）

③調べ方ワークショップ
（図書館司書と連携）

スライド 15

最後に

- 先生方は不安。
- 「教える・教わる」の関係の方が楽。
 - 探究という不確実なものに対して先生もコミットメントしづらい。
- 生徒の進路に対して本当の意味で責任を持つというために探究活動は重要。
- （今回の講演も含めて）他の先生方にも追究していくべき「世界」のひろがりを感じさせることが私たちが全うすべき「シゴト」なのかもしれない。

スライド 1

第22回高大連携教育フォーラム
第1分科会
報告②
京都府立洛北高等学校
戸田 智和

スライド 2

洛北高校の現状

普通科

- 文理コース: 4クラス160名
- スポーツ総合専攻: 1クラス40名

サイエンス科

- 中高一貫: 2クラス80名

○主な探究活動

- 普通科文理コース
「総合的な探究の時間」…国教英の教科内で指導(令和7年度から変更予定)
- スポーツ総合専攻
「スポーツ総合演習」…スポーツに関連する研究と卒業発表
- サイエンス科中高一貫
「課題探究Ⅰ・Ⅱ」…テーマごとにグループをつくって研究活動を実施

スライド 3

洛北高校の探究活動

- サイエンスチャレンジ 授業を離れて、様々な「科学」に挑戦
洛北算数 化学グランプリに挑戦! 熱流体研究室
IPS細胞をつくらう 理化学研究所見学ツアー など多数
- 大学研究室体験研修(SHOOT Lab)
- 校外学習
- サタデープロジェクト 土曜日に多数の講座を開催
プラズマ発生実験 構造主義的に読んでみる
知ってるつもり「発芽」を考える
キッチンサイエンス アートホテル探訪 など多数

・任意だが多くの生徒が参加する。
・最も参加数が多かった生徒を表彰している。

スライド 4

洛北Step Up Matrix (探究活動の指標)

Step	A	B	C	D	E	F
5	探究活動の名称が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。
4	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。
3	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。
2	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。
1	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。	探究活動の目的・内容が明確で、目的・内容が記述されている。

スライド 5

生徒の自己評価 (探究活動のアンケート)

・各年度の年度当初にアンケートを実施。
・高校3年生10月時点のデータを卒業時データとして利用。
・レーダーチャートで見ると、基本的には年度が進むにつれて評価も上がる傾向がある。

スライド 6

探究活動の自己評価と進学結果の関係 (令和5年度)

- 大学種別各項目平均値
- 受験種別各項目平均値
- 男女別/大学種別各項目平均値
- 国立大学進学受検種別・男女別

・探究活動等において成長を実感している生徒は進路選択の幅を広げている傾向がみられる。
・一般選抜と総合型/学校推薦型選抜を比較すると、特定の項目に差がみられる。

スライド 7

サイエンス科の探究活動を普通科へ

- サイエンス科「課題探究」の流れ
 - 高校 1 年次 ⇒ 「研究とは何か？」
 - …研究アイデア発表会／ミニ課題研究
 - 高校 2 年次 ⇒ 「研究&論文作成」
 - …計画発表会／予備実験・本実験
 - アドバンスセミナー／報告書・ポスター

「課題探究」の成果

- △各種科学オリンピックへの出場
- △各種科学コンテストへの論文応募
- △研究を通じたキャリア意識の形成 → 総合型／学校推薦型選抜による受験

スライド 8

サイエンス科の探究活動を普通科へ

- 「課題探究」のサポート体制
 - ◇理科・数学・地歴公民の教員が中心となって指導
 - ◇統括する分掌（総務企画部）がハブとして機能
 - ⇒外部機関との連携／各種コンテストの紹介など
 - ◇過去の研究実績の蓄積

「課題探究」の問題点

- ▼業務量の増加
- ▼業務の専門化／個人化（理科への負担）
- ▼生徒の多忙化（授業時間内では実験等を終えられない）

スライド 9

サイエンス科の探究活動を普通科へ

- 普通科文理コースの探究活動
 - ◇「総合的な探究の時間」⇒「文理探究」に名称変更
 - 各学年 1 時間 ⇒ 高 1（1 時間）＋高 2（2 時間連続）
 - ◇各教科での探究活動からテーマ別の探究活動へ
 - 高校 1 年次 … 探究活動の手法を学ぶ
 - 高校 2 年次 … テーマ別の探究活動を行う

「文理探究」の展望

- △「課題探究」の手法を応用することにより、探究活動としての成果を向上させる。
- △キャリア意識を醸成することにより、キャリア形成の根幹を築く（文／理選択）。
- △探究活動の指導についてブラッシュアップを図る。

スライド 10

探究活動の課題

- 探究活動を行う上で必要なもの
 - ◇校内での意志統一／ビジョンの共有
 - 誰のための／何のための／どこへ向けての活動か？
 - ◇担当・役割の明確化&システム化
 - 他人任せにしない／誰もが協力できる体制づくり
 - ◇校務の整理
 - 業務の総量を増やさない／選択と集中

☆学校は枠組みを設定するが、生徒自身がフクフクすることが大切。
☆探究活動を文化祭のようにすることはできないだろうか？

スライド 11

探究活動とキャリア教育

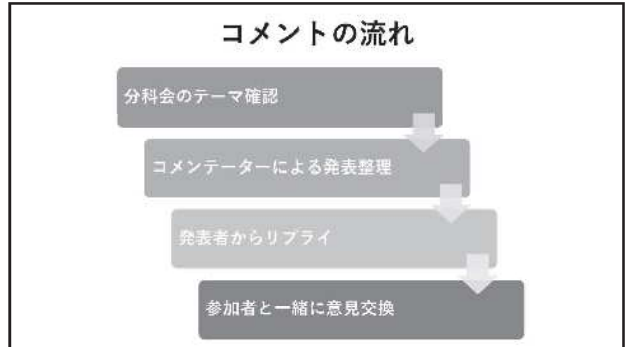
- 探究活動の成果＝キャリア教育の成果？
 - 目に見える成果／目に見えない成果
- 生徒の自律的成長を促すシステムづくり
 - 内発的動機づけ／学び方を学ぶ／成長の実感
- 短期的視点から長期的視野へ
 - 教育プロセスの明確化／教育機関の連携

☆ご清聴ありがとうございました。

スライド 1

発表へのコメント
 (第22回高大連携教育フォーラム 第1分科会)
 2024年11月16日
 京都橘大学 経済学部
 乾 明紀

スライド 2

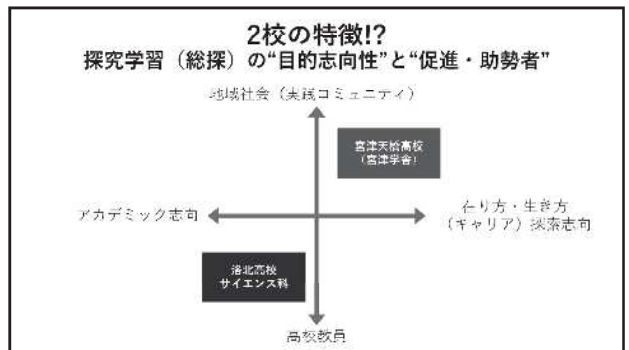


スライド 3

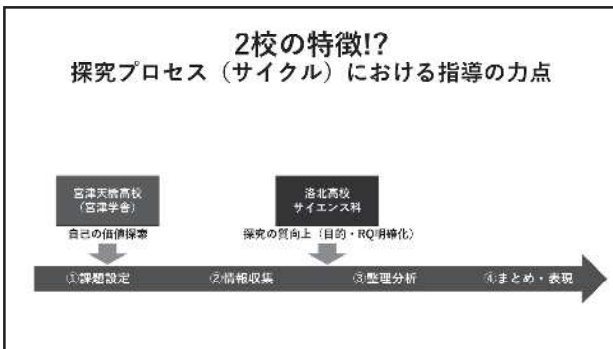
第1分科会 テーマ

高校での探究活動を、
 どのように高校生のキャリア形成・発達につなげるのか
 ～指導のあり方、校内体制、展望や苦悩の視点から～

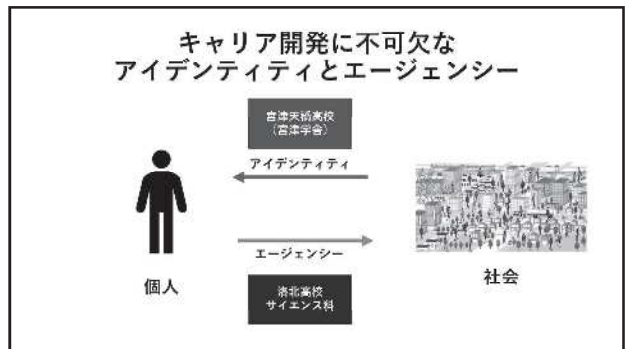
スライド 4



スライド 5



スライド 6



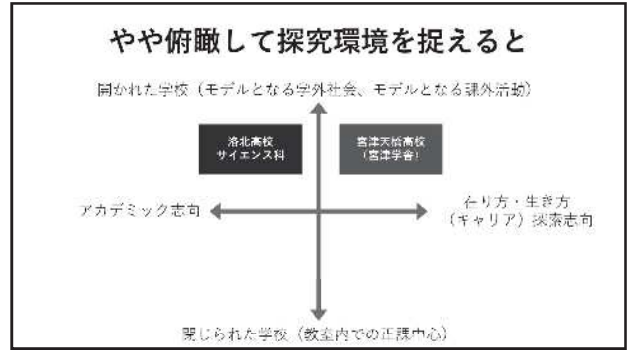
スライド7

探究学習を豊かにするもの 盛り上がりを助勢するもの

<p>洛北高校サイエンス科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH ・課外での探究活動（サイエンスチャレンジ、大学研究室体験研修など） ・過去の探究蓄積 	<p>宮津天橋高校（宮津学舎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会とのネットワーク ・課外での探究活動（フィールド探究部） ・生徒だけでなく先生も動機づける全体講演と配慮（実践共同体づくり）
---	---

モデルとなる課外（探究）活動が
学校（探究）文化を創っているのではないだろうか？

スライド8



スライド9

参加者への問い（グループディスカッション） どこに力点において“探究”をされていますか？

<p>2校の特徴1? 探究学習（課題）の“目的意識”と“制度・動機”</p>	<p>キャリア開発に不可欠な アイデンティティとエージェンシー</p>
<p>2校の特徴2? 探究プロセス（サイクル）における指導の力点</p>	<p>やや俯瞰して探究環境を捉えると</p>